

平成25年9月19日

# 介護支援専門員としての看取り への取り組み

大村市医師会  
居宅介護支援事業所

# H24年度における癌終末期 件数

- 医師会居宅介護支援事業所において  
全体の4.2%の割合を占める
- 内訳      男性                      82%      女性      18%
- 介護度      介護 1                      11%  
                    介護 2                      26%  
                    介護 3                      11%  
                    介護 4                      32%                      申請中 4 %  
                    介護 5                      16%

# 在宅になった理由

- 本人・家族の希望が90%以上

- 初回面接時期

入院中

32%

在宅療養中

68%

(退院後1~2週間)

# 退院前カンファレンス

Drからの病状説明

担当看護師からの状態確認

本人・家族の意向、不安点

現在の問題点

バックベッドについて

『最期は、どこで過ごしたいか・・・』

# 在宅における担当者会議

- ・ 関係職種での在宅支援

主治医、副主治医、訪問看護、訪問介護などの訪問系サービス

福祉用具事業所、通所系サービスなど・・

# ～在宅での生活が苦痛なく一日でも長く 過ごせるように～

ケアマネージャーとして

- 本人の考える生活に寄り添う事
- 苦痛や不安の除去
- 介護者へは、出来る介護についての確認
- 家族の一員として時間の共有ができる

## •在宅日数

1週間以内	21%
1週間～1か月	15%
1～3か月	32%
3か月以上	32%

## •主治医

総合病院	21%
開業医	79%

・ 看取りの場所

病院 37%

自宅 63%



# 在宅での看取り

～本人の思いを遂げることができた1週間～

# 利用者背景

Tさん 59歳 男性 舌癌末期

- 身体状況

H21発症

4回の手術施行し放射線治療実施

1か月前までは自宅内を 杖歩行

# 生活背景

- 大村市生まれ
- 本人兄と自営業を営んでいたが、  
病気の進行により退職
- 子供は3人
- 妻は、パート勤務

生活は困窮状態であった

# 告知

家族には、1ヶ月だろうと・・・  
本人には、告知してないが、

「一日も早く退院し、自宅で過ごしたい。」

# 本人の状況

- 疼痛

昨日まで激痛あり

本日より、やや緩和だが、コントロール

不十分

- 現在のADL

ベッド上にて寝返りのみ可

おむつ交換は2人介助

日中は傾眠がち

# 退院前カンファレンス

疼痛コントロール不十分であるが、在宅に戻るタイミングとして、今が最後のチャンス

- 疼痛のコントロールは、どうするか••
- 妻が、パートに出掛ける時間帯の見守りは••

# カンファレンス結果

- 主治医、副主治医をDrネットで依頼
- 疼痛については、持続点滴(ポンプ)を使用し  
緩和を図る
- 実際のポンプを使つての使用方法の確認
- 妻が留守にする時間帯にサービス利用
  - 福祉用具レンタル

# 退院後の本人・介護者の状況

- ・本人

ポンプ使用により疼痛緩和

昼夜逆転のサイクル⇒本人に合わせてよう

- ・妻

ベッド横に布団を敷いて就寝



# 多職種連携

- 日中のサービス利用に関しては、連携ノートや口頭での伝達により多職種との連携が取れ、本人・妻の安心に繋がった。
- 夜間も訪問看護にコールしてよいと説明し、いつでも稼働できる体制を取っていたことが安心に繋がった。

# 退院後7日間で永眠

- 短い期間であったが、本人にとっては、  
望んでいた自宅で過ごすことができた
- 妻にとっても、限界ギリギリの状態ではあったが、  
家族全員で看取ることができて良かった

# 最後に

一人一人、病状も違えば、介護力、経済面も異なっているが、その方の状況に合わせて、出来る限り、望む最期を迎えて頂きたい。

「良かった」「悔いはない」と言っていただけのように…

そのためには、細やかな連携が必須だと痛感する。